

2011年度 役員紹介

社会と会員の求めに応じて — 2011 年度会長に就任して —

東京弁護士会会長 竹之内 明

本年度会長に就任しました竹之内です。

世の中も、弁護士の世界も、閉塞感が漂っていますが、副会長、監事、嘱託、会員の方々、そして職員の方々とともに、力を合わせて、明日への一步を踏み出していきたいと考えています。一年間、よろしく願います。

さて、それでは、明日への一步をどこから踏み出すのかということですが、それは、今、社会が求め、会員が求めていることは何なのかを見極めることから始まると考えています。

社会が求めていること、それは、取調べの可視化（取調べ全過程の録画）だと思います。

昨年、足利事件での再審無罪判決、厚労省元局長事件での無罪判決が相次ぎ、さらに、大阪での警察官任意調べの録音テープがマスコミに公表され、自白強要の実態が国民の知るところとなりました。

自白強要を防止し、密室取調べによる冤罪の発生を防止するため、取調べの可視化を実現することに、力を尽くしたいと思います。昨年は、法曹人口問題、司法修習生の給費制維持の問題など内向きの議論に終始したかの感がありますが、外に打って出ることによって、明日への出口を見いだしていきたいと考えます。

もう一つの会員が弁護士会に何を求めているかということですが、それは、業務基盤の確立と会員への支援だと考えます。

急激な弁護士数の増加は、新人・若手はもとより、一般会員にも大きな影響を及ぼしており、業務基盤を確立するための取り組みが必要です。それは、従来であれば埋もれていた法的ニーズを掘り起こす

ことと表裏の関係にあります。

例えば、ドイツでは、市民の弁護士費用の内、2～3割が法律扶助で、4割程度が権利保護保険（弁護士保険）で賄われているとのこと。アクセス障害を除去し、「法の支配」を実質的に保障していくには、本年度政府予算案において10億円の増額となった法律扶助予算のさらなる拡大や国選弁護士費用の増額を図るとともに、中間所得層を対象とする権利保護保険の利用を促進していくことが不可欠です。また、労働審判制度にならった民事審判制度を創設するなど紛争の早期解決を可能にする仕組みを作ることも必要です。

これらの取り組みは、いわば民事を中心とした第二次司法改革です。このような取り組みに力を尽くしつつ、運用面では、被後見人の財産侵害などの問題が生じている成年後見の分野への弁護士関与の拡大、ADR制度の整備と利用の促進、さらには地域に根ざし利用しやすい法律相談体制の構築などにも取り組みたいと思います。

また、これまで以上に、就職紹介や経営サポート、新分野の開拓やそのための研修など、会員、とりわけ新人・若手会員が将来に対する希望をもてるような積極的な支援策を展開していきたいと考えています。

法的需要は、確実に存在するのに、未だに弁護士への敷居は高いのが現実かと思われます。行政とも連携しながら、弁護士が市民に手をさしのべる、弁護士会も弁護士に手をさしのべる、そんな仕組み作りをめざしたいと思います。

よろしくご支援、ご協力の程お願い申し上げます。

2011年度の役員に
誌上インタビューを行いました。
1年間よろしくお願いいたします。

質
問

1. 一番関心のあることは何ですか？
2. 一番大切にしていることは何ですか？
3. 長所・短所、趣味は何ですか？
4. 座右の銘は何ですか？

「小心」で行きます

会長 竹之内 明 (31期)



1. 取調べの可視化（取調べ全過程の録画）と人質司法の打破につながる日本型の保釈保証制度（「自由と正義」の1月号をご一読下さい）実現です。個人的には、昨年生まれた初孫の成長でしょうか。
2. 一番大切にしているのは、睡眠の確保。これが健康の源泉だと信じています。そのためには、入浴もカット。おかげで、風呂嫌いでおっています。床屋も病院も嫌いです。
3. 長所は、粘り強いこと、それに小心なこと。短所は、脇が甘いこと。おかげで皆さん、私のことをサポート（介護？）してくれます。趣味は、年1回のスキーと、暑い時、寒い時はお休みのテニス。勿論下手くそです。これでは趣味と言えませんね。ものぐさなのです。
4. 以前は、「見る前に跳べ」。跳ばなければ見えないものがあると考えてきました。今は、「跳ぶ前に見ろ」。ご安心下さい。

よろしくお願いします！

副会長 藤原 浩 (33期)



1. 調和のとれた司法改革の実践と魅力ある法曹養成制度の実現の点です。東弁の副会長としても、弁護士会が身近で頼りがいのある存在であるように努力したいと思います。
2. 信頼と健康です。
3. 長所は人の意見を良く聞くことであり、短所は人の意見に流されやすいことでしょうか。協調性はあるが、付和雷同的な面も多いというのが自己評価です。ただ、何事に対しても明るく前向きに考えるタイプだと思っています。趣味は、血圧の測定値のようなゴルフと、ミステリーを中心とした読書・映画鑑賞です。
4. 東弁副会長としては、上杉鷹山の「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」を座右の銘として頑張りたいと思います。個人的には、一休和尚の遺言と言われる「ナルヨウニナル。シンバイスルナ」ですが…。

希望の持てる弁護士会を

副会長 篠原 煜夫 (34期)



1. 現在、弁護士人口の急増に伴い、いろいろな「ひずみ」が生じています。弁護士会は、これを是正する方策を考えていく必要があります。若手会員を含む多くの会員が、夢と希望を持てる弁護士会を実現すべく努力したいと考えています。
2. 一番大切にしていることは、信頼関係です。依頼者はもちろん、先輩・同僚・後輩との信頼関係をさらに深めていきたいと思っています。
3. 長所と短所は裏腹の関係にありますが、喜怒哀楽の激しいところでしょうか。つまり、単純でわかり易い人間ということです。趣味は、旅行（温泉）、将棋です。道楽は麻雀ともう1つありますが、内緒にしておきます。
4. 座右の銘というほどのものはありませんが、強いて挙げれば、「初心忘るべからず」という言葉です。

楽しく生きよう

副会長 内田 成宣 (35 期)



1. 市民及び弁護士にとっての弁護士会の存在意義を確立すること、その弁護士会を背景として、弁護士個々人が、安心して弁護士業務を行うことが出来るようにすること。
なお、私の個人的なこととしてはいかに減量するかということ。
2. 家庭と健康
3. 長所は、人と話すことが好きなこと。特に自分の知らない分野のことは説明を聞き、広く浅く

であっても自分の知識にしたいと考えています。
短所は、年令を重ねてきて若い頃に比べて、少し気が短くなってきたこと、若干集中力が続かなくなってきたこと、物忘れが多くなってきたこと。
趣味は、現在はこれというものはありません。晩酌かな？
4. 座右の銘は「最善のものを希望せよ。しかし、最悪のものに備えよ。」

真摯に前向きに

副会長 白井 剣 (37 期)



1. 将来を見すえ、基盤のしっかりした大きな弁護士会をつくること。物理的(第2会館の確保)にも、内実(活動の拡大と活性化)も。そのために少しでも役立てればと思っています。
2. 真摯に前向きに取り組む姿勢を大事にしたいといつもっています。ただし、視野狭窄に陥りがちですし、能力を超えて引き受けてしまいご迷惑をかけることもしばしばで、自戒しています。

3. 長所は少なすぎてとても書けない。短所は多すぎて書ききれない。趣味はありません。
4. 人はあらゆる価値の両面をもっている。ときに強く、ときに弱く、ときに優しく、ときに悪意をもつ。ときに正しく、ときに邪悪であり、そして、しばしば間違える。しかし、それでも人は、自暴自棄にならないかぎり、価値の正しい側面を求める。(大門哲)

明るい未来を目指して

副会長 山中 尚邦 (38 期)



1. 21 世紀の社会において、市民のための開かれた司法をどう実現して行くのか、弁護士が仕事に誇りを持ち、未来に希望を持つためには何をすべきか、弁護士が増加し続ける中で、弁護士が弁護士会への帰属意識を持ち続ける為に何が必要か、ということに関心を持っています。
2. (仲々実行できないだけに、)「逃げない。求め

- ない。」という姿勢を大切にしたいと思います。
3. 長所は、性格が楽天的なこと、気が長いこと、周りの人と協調できることです。逆に、短所は、物事の詰めが甘く、決断が遅れがちで、他人を自分の意見に従わせるのは苦手なことです。趣味は計画を立てて旅行することと映画鑑賞です。
4. “Cool Head, But Warm Heart”

1 年間お世話になります

副会長 吉野 高 (39 期)



1. 法曹養成の問題です。ロースクールにおける教育内容・給費制・司法試験合格者数・法曹人口等、法曹養成については、多くの大きな問題が山積しています。これらにつき、どのような議論をして、解決していくのか。現在、ロースクールの受験者数が減少しています。法曹養成の諸問題を改善し、多くの人に法曹への門を叩いてもらえるようにしたいと、思っています。
2. 問題解決の方向性を誤らないこと。問題解決

- に向けて努力しても、方向性が誤っていると、結果としては何もしなかったほうが良かった、ということになります。言うは易しではありますが、気をつけます。
3. 長所：特にありません。短所：利己的。
趣味：3 年ほど前から始めたゴルフ。一向に上達しません。
4. 愚公山を移す。長かった司法試験浪人中に、父が教えてくれた言葉です。

公平と信頼を

監事 山田 博重 (42期)



1. 様々な組織・団体の監査の任に当たってきた経験を活かし、会財政の健全化に力を注ぎたいと思います。
2. 「先人の行跡」・「先任の功績」を次代に繋ぐ役回りとして心得ております。
3. 長所は「公平無私」・短所はその裏返しで、淡泊な性格と言われます。

趣味は、週1のテニス・月1のゴルフ・年1のスキーと、スポーツ全般、やるのも観るのも大好きです。

4. 出身中・高の開成で刷り込まれた「質実剛健」を座右としています。因みに、開成剣道部OBです。

よりよいお金の使い方を考えましょう

監事 末次 弘明 (48期)



1. 弁護士会のことで言えば、東京弁護士会の財政です。会財政の窮迫が指摘されており、そういう面があるとは思いつつ、貯蓄のために会費を集めているわけではなく、会員のため、一般社会のため、会の活動に必要なものは使うべきとも思います。よりよい活動のためどのような使い道があるのか、1年間考えて行きたいと思っています。
2. 家族です。子育ては楽しいですし、大切な時間です。

3. 長所はおおらかなことですが、反面で緻密さに欠けているのが短所です。

4. 「幸せは不幸だと思える状態と現在の状態との差である。」絶対的な幸福は外部には存在せず、本人の感じ方にすぎないと思わせてくれる言葉です。死を不幸と思えば、生きていることだけで幸せです。太陽のない世界を不幸と思えば、太陽に出会えるだけで幸せです。朝一杯のコーヒーにも幸せを感じることができます。

■ 2011年度 東弁常議員 (80人)

中本源太郎	下谷 收	平光 哲弥	山本 昌平	折原 康貴	木嶋 純子	山本 章一	佐賀 豪
西尾 則雄	藤田 浩司	高久 尚彦	宮下 正臣	神田 元	池田一二奈	堀田 正明	夏苺 一
加藤 文也	高橋裕次郎	赤尾 太郎	好川 久治	高橋 良裕	菊地 将人	伊藤 献	中村 裕也
松江 康司	柳原 毅	松井 菜採	深澤 勲	山本 志都	田中 慎也	中村 穂積	高瀬 亜富
小島 延夫	山口 芳泰	野村まき子	楠本 雅之	藤原圭一郎	三澤麻衣子	饗庭 亨一	蓮見 友香
若松 巖	廣澤 幹久	大塚幸太郎	永淵 慎	阿久津真也	清澤清一郎	林 治	久保田明人
木村 雅行	渡辺 彰敏	久保田 伸	丸山 幸朗	水村 元晴	竹内 奏子	石田 亮	森 大輔
上田 智司	齊藤 園生	佐藤 雅彦	佐川 明生	平松 英樹	岡田 卓巳	酢谷 裕子	谷中 俊介
山田 正記	磯谷 文明	古澤 昌彦	浜本 匠	吉田 礼明	大森 浩司	米田 秀之	丸山 輝
濱田 広道	富永 博之	田中 勝	木下正一郎	井村 華子	杉森 洋平	服部 弘幸	吉原 大輔

■ 2011年度 日弁連代議員 (68人)

中本源太郎	山田 正記	赤尾 太郎	宮下 正臣	山本 志都	菊地 将人	吉原 隆平	平 裕介
西尾 則雄	藤田 浩司	松井 菜採	深澤 勲	藤原圭一郎	田中 慎也	中村 穂積	久保田明人
篠原 煜夫	高橋裕次郎	野村まき子	楠本 雅之	阿久津真也	三澤麻衣子	饗庭 亨一	谷中 俊介
内田 成宣	柳原 毅	大塚幸太郎	永淵 慎	水村 元晴	清澤清一郎	林 治	丸山 輝
小島 延夫	廣澤 幹久	久保田 伸	丸山 幸朗	赤司 修一	竹内 奏子	石田 亮	吉原 大輔
若松 巖	渡辺 彰敏	佐藤 雅彦	佐川 明生	井村 華子	大森 浩司	酢谷 裕子	
白井 剣	齊藤 園生	古澤 昌彦	浜本 匠	木嶋 純子	杉森 洋平	米田 秀之	
河野 孝之	磯谷 文明	田中 勝	木下正一郎	池田一二奈	山本 章一	夏苺 一	
上田 智司	高久 尚彦	山本 昌平	神田 元	南 裕史	伊藤 献	中村 裕也	